

## 本書のねらい

本書は、中上級レベルの学習者が日本語について学びながら、日本語力を向上させることを目的としています。日本の言語学者が一般向けに分かりやすく論じた「生の」文章を軸として、学習者が日本語をめぐる数々の問題について考え、ディスカッションし、発信する中で、言語文化に対する意識を高めることがねらいです。

外国語学習は、単語や表現を覚えてただがむしゃらに練習するだけでは、いつか壁にぶち当たります。日本語の学習では覚えることがたくさんありますが、それは逆に、背景にある歴史や文化、ことばのしくみに目を向けて、一見ばらばらに見える知識を関連づけ、体系化させる学習が必要だということです。たとえば、非漢字圏の日本語学習者の多くは、漢字の数の多さと形の複雑さにため息をつき、「漢字は難しい」「覚えることが多すぎる」と感じていることでしょう。しかし、そのような認識だけでは学習意欲が湧きませんし、漢字学習も前には進みません。それをもし「漢字はなぜ字数が多いのだろう?」「複雑さの中に何か規則性はないのだろうか」という問題意識に発展させ、自ら探究する姿勢で学習に取り組んだらどうでしょうか。そして、表意文字としての漢字の特性や、漢字文化の地域的、歴史的つながりを探り当てたときの感動はどれほどのもののでしょうか。そのような「そうか、そうだったんだ」と胸にストンと落ちるような体験を重ねることで、難しいと感じていた学習が次の段階に進んでいくのです。

本書は、ある程度日本語の知識のある学習者が、それまでばらばらに覚えてきたことをまとめ、新たな問題意識をもって日本語に取り組める機会を提供します。同時に、読解、語彙・表現練習、ディスカッション、考察、表現活動と、段階的に学習を発展させることで、言語知識と運用力をバランスよく伸ばします。このような分析力と言語力を養うことで、自分で学習課題を立て、様々な学習ツールを使いながらも自力で日本語力を伸ばしていけるような自律した学習者を育てることをめざします。

10 Topics on Reading and Thinking about the Japanese Language for Intermediate and Advanced learners

©2022 MORI Yoshiko

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted in any form or by any means, without the prior permission in writing of Kurosio Publishers.

First edition: July 2022

Kurosio Publishers  
4-3, Nibancho, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0084, Japan  
<https://www.9640.jp>

ISBN 978-4-87424-908-6

Printed in Japan

目次 CONTENTS

本書をお使いになる皆様へ ..... iv

本書をお使いになる先生方へ ..... viii

第1課 言葉に敏感になろう ..... 1

読み物 大野晋「意味の違い目を見る」 『日本語練習帳』岩波書店1999

第2課 日本語らしい表現とは? ..... 13

読み物 金田一春彦「他人への考慮」 『日本語 新版(下)』岩波書店1988

第3課 ことばは文化を表す ..... 25

読み物 鈴木孝夫「太陽と月」 『日本語と外国語』岩波書店1990

第4課 漢字について考えよう ..... 37

読み物 阿辻哲次「漢字の数／部首の不思議」 『漢字再入門』中央公論新社2019

第5課 敬語を学ぼう ..... 51

読み物 菊地康人「敬語の種類」 『敬語再入門』講談社2021

第6課 カタカナはどんなときに使われる? ..... 67

読み物 秋月高太郎「ココはカタカナで書くしかないデショ?」 『ありえない日本語』筑摩書房2005

第7課 擬音語・擬態語は面白い ..... 83

読み物 山口仲美「擬音語・擬態語に魅せられる」 『犬は「びよ」と鳴いていた』光文社2002

第8課 ことばは変化する ..... 97

読み物 井上史雄「ラ抜きことばの背景」 『日本語ウォッチング』岩波書店1998

第9課 方言を見てみよう ..... 115

読み物 大西拓一郎「「行くだ」「言うだ」のような言い方」 『ことばの地理学』大修館書店2018

第10課 これからの日本語 ..... 129

読み物 庵功雄「マインドとしての〈やさしい日本語〉」 『〈やさしい日本語〉と多文化共生』ココ出版2019

巻末 表現を使おう ..... 145

文法用語／日本史時代区分

ニュースを伝える

表やグラフを説明する

比較・対比する

事実／意見を引用し支持する

事実／意見を引用し反論する

異なる見解を考察した上で自分の意見を述べる

インタビューし、その結果を報告する

アンケート調査をし、その結果を報告する

フィードバックする

出典 ..... 167

本書をお使いになる皆様へ

本書の特徴

- 1 日本語に関する題材を扱うことで、学習者の興味と学習意欲を引き出す
- 本書で扱う題材は、言葉の意味、言語と文化、漢字、敬語、カタカナ語、擬音語・擬態語、言語の変化など、どれも「日本語」に関することです。中上級の日本語学習者にとって、ある程度、学習経験と知識があるため、興味を持ちやすく、そこに新しい気づきや発見があれば、学習意欲が高まります。各課とも、学習者の知っていることから出発し、「あ、そうか」「そうだったんだ」と、ばらばらに覚えていたことがつながったと実感できるような学習をめざします。
- 2 言語に対する分析力・メタ認知力を養う
- 日本語力を向上させるには、言語知識を増やすだけでなく、言葉を分析する力や自らの学習を客観的に把握、管理する力（メタ認知力）を養って、自力で言語力を伸ばせるようにすることが大切です。本書は、もう知っていると思っていることに疑問を投げかけたり、問題意識をもって自分で調べたり、考えたりすることを重視します。さらに、学習者同士で情報や意見を交換し合うことで、自分の理解や考えを整理し、新しい知識や考え方を取り入れる技量を広げることをめざします。
- 3 日本語の言語知識と運用能力の向上をめざす
- ある題材について理解、発信するには、基礎的な言語知識やスキルだけでなく、その話題に特化した語彙や表現を学び、使えるようにする必要があります。本書を使った学習では、教養のある日本人向けに書かれた「生」の文章を正確に理解するだけでなく、そこから学んだ語彙や表現を何度も違うコンテキストで使えるような作業や活動を行います。「読み物」の内容とそこから学んだ表現を、学習活動とスパイラル式に関連させ合うことで、「見ればわかる」知識から「使える」知識への転向をめざします。
- 4 どの課からでも始めることができる
- どの課も構成は同じですが、内容面、言語面とも独立しているため、興味のある課から始めることができます。各課の学習語と文法表現として取り上げられているものは重複していないため、本書を使って学習することで、着実に言語知識を増やすことができます。

本書の構成

本書は10課の構成で、各課ごとに「読み物」を中心に、次のトピックを扱っています。

|      | トピック             | 読み物                       |
|------|------------------|---------------------------|
| 第1課  | 言葉に敏感になろう        | 大野晋「意味の違い目を見る」            |
| 第2課  | 日本語らしい表現とは？      | 金田一春彦「他人への考慮」             |
| 第3課  | ことばは文化を表す        | 鈴木孝夫「太陽と月」                |
| 第4課  | 漢字について考えよう       | 阿辻哲次「漢字の数／部首の不思議」         |
| 第5課  | 敬語を学ぼう           | 菊地康人「敬語の種類」               |
| 第6課  | カタカナはどんなときに使われる？ | 秋月高太郎「ココはカタカナで書くしかないデシヨ？」 |
| 第7課  | 擬音語・擬態語はおもしろい    | 山口仲美「擬音語・擬態語に魅せられる」       |
| 第8課  | ことばは変化する         | 井上史雄「ラ抜きことばの背景」           |
| 第9課  | 方言を見てみよう         | 大西拓一郎「『行くだ』『言うだ』のような言い方」  |
| 第10課 | これからの日本語         | 庵功雄「マインドとしての〈やさしい日本語〉」    |

各課の構成

1. 読む前に考えてみよう
- 各課のテーマや「読み物」で扱う話題について知っていることを確認したり、学習者同士で情報交換をしたりしながら、読むための準備をします。
2. 読み物
- 各課の中心となる「読み物」を正確に理解します。「読み物」は、学習者向けに加工されたものではなく、日本の言語学者が一般向けに専門分野を論じた本から抜粋した読みごたえのある文章です。そのため、日本語能力試験（JLPT）のN1、N2、N3、級外相当の語と漢字は別冊の単語リストに読み方と意味をまとめました。Webサイトには、各課で学べき20語を練習する問題もあります。学習者の語彙力に応じて、単語リストと練習問題を活用し、読解の負担を調整してください。一度読んでよく理解できないところは、何度も読み返すといいでしょう。次の「読んで理解しよう」の問題を参照しながら読み進めると、大切な情報をとらえる練習になります。
3. 読んで理解しよう／クラスメートと話し合おう
- 読解問題に答えながら「読み物」が正確に理解できたかを確認します。読解問題には、正

誤問題、選択式、穴埋め、記述式と、形式と難易度の異なる問題があります。指示詞の問題は、文のつながりや文章の流れを把握するいい練習になります。最後に、「クラスメートと話し合おう」でディスカッション・クエスチョンが用意されています。「読み物」から学んだ知識や表現を使って、意見を交換し合いましょう。

4. 文法表現を学ぼう

「読み物」の内容が理解できたら、そこで使われている表現形式に注意を向けます。ステップ1では、これまでの文法知識を生かして、助詞と文法表現を書き入れる問題を行います。これは、コンテキストの中で語や表現がどのように関連し合っているかを考える練習です。ステップ2では、文法表現をいくつか取り上げ、使うことを意識した練習を行います。ここで取り上げた文法表現が、その後、文章を書いたり、口頭発表をしたりするときに使えるように、例文やコンテキストには「読み物」の内容に沿った表現が使われています。

5. 考えをまとめ、書いてみよう／発表しよう／発展させよう

「読み物」を読んだら、問題を整理し、ディスカッションや作業を通して、自分の考えをまとめます。考えるヒントとして課題が用意されていますが、学習者の問題意識と日本語力に応じて、課題を変更してもかまいません。考えがまとまったら文章にして、クラスで発表します。同じ内容を伝えるにも、書くのと話すのとでは、言葉づかいや情報の使い方が違うため、それぞれの利点を生かした分かりやすい伝え方を工夫してください。「発展させよう」では、「読み物」から得た知識を応用したり、グループまたは個人で進める学習者主導のプロジェクトを行います。各課で学んだ知見や表現を最大限に活用して、自律型・発信型の日本語学習を実践しましょう。

巻末「表現を使おう」

文章を書いたり、口頭発表したりするときに使ってほしい表現を「表現を使おう」として巻末にまとめました。課題に応じて活用してください。

- 1 文法用語／日本史時代区分

3 表やグラフを説明する

5 事実／意見を引用し支持する

7 異なる見解を考察した上で自分の意見を述べる

9 アンケート調査をし、その結果を報告する
- 2 ニュースを伝える

4 比較・対比する

6 事実／意見を引用し反論する

8 インタビューし、その結果を報告する

10 フィードバックする

別冊

1 解答例

本書の模範解答を示しました。自習、復習に活用してください。

2 単語リスト

「読み物」ごとに、日本語能力試験（JLPT）のN1、N2、N3、級外相当の語と漢字の読み方と意味をリストアップしました。それ以外にも、読解の際に必要なと思われる語も加えてあります。それぞれの語に英訳をつけました。また、各課で学すべき20語（主に漢語）には\*印がついています。これは「読み物」のキーワードとなる語や、応用範囲の広い基本語です。集中的に学習するといいでしょう。本書を修了すると、200の学習語を新しく学んだことになります。

Web サイト [https://www.9640.jp/books\\_908/](https://www.9640.jp/books_908/)



- ▶ 漢字と語彙を覚えよう（練習シート）
- ▶ 敬語力診断テスト・解答
- ▶ 評価表サンプル

授業時間数

本書を使った授業時間数は、コース目標、学習者のレベル、発展学習をどれだけ取り入れるかなどによって、教員が柔軟に設定することができます。たとえば、75分授業が週2回、15週間のコースでは、1学期に5課分、1課につき約3週間（授業6回分、7.5時間）で進めることが目安となります。ただし、これは学習者が授業外に、課題の準備やクイズの勉強などで、少なくとも週に2～3時間は学習時間をとっていることが前提です。限られた授業時間内で教室活動を円滑に進めるには、授業外での学習と準備が不可欠です。両者は補完的な役割を果たします。学習者の日本語力や授業外学習がどれだけ期待できるかに応じて、最適な授業時間数を割り出してください。

以下、参考として、「読み物」を中心とした1課あたりの学習計画を紹介します。

|   | 流れ           | 教室活動                                                              | 授業外学習／宿題                                                               | クイズ            |
|---|--------------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 1 | 前作業          | 「読む前に考えてみよう」                                                      |                                                                        | 漢字・語彙クイズ       |
|   |              | ●「読む前に考えてみよう」の作業をしながら、学習者同士で情報・意見交換<br>●学習語・漢字の導入・練習（1時間）         | ●授業の前に「読む前に考えてみよう」をしておく<br>●漢字練習、漢字・語彙クイズの勉強                           |                |
| 2 | 読解           | 「読んで理解しよう」「クラスメートと話し合おう」                                          |                                                                        | 音読クイズ<br>読解クイズ |
|   |              | ●「読み物」をクラスで一緒に読み、内容と表現を確認<br>●「読み物」についてのディスカッション（3時間）             | ●「読み物」を自分で読み、読解問題に答えておく<br>●「読み物」の一部を音読した音声ファイルを提出(音読クイズ)<br>●読解クイズの勉強 |                |
| 3 | 文法表現         | 「文法表現を学ぼう」                                                        |                                                                        | 文法表現クイズ        |
|   |              | ●ステップ1の答え合わせと要点の説明<br>●ステップ2の文法説明と表現練習（1時間）                       | ●授業の前にステップ1を宿題としてやっておく<br>●文法表現クイズの勉強                                  |                |
| 4 | ディスカッション・考える | 「考えをまとめ、書いてみよう」                                                   |                                                                        |                |
|   |              | ●「読み物」のテーマについて話し合う<br>●問題点を整理し、考えをまとめる<br>●意見文の構成を考え、表現を復習する（1時間） | ●「考えをまとめ、書いてみよう」に作業がある場合は授業の前にやっておく<br>●意見文の第1稿を書いて提出                  |                |
| 5 | 発信           | 「発表しよう」                                                           |                                                                        |                |
|   |              | ●口頭発表<br>●質疑応答・ディスカッション・ピアフィードバック（各発表10分程度、1時間）                   | ●発表準備<br>●教員と学習者のコメントを参考に意見文を改稿し、オンライン上などで共有する                         |                |

| 6 | 発展学習 | 「発展させよう」                        |                                      |
|---|------|---------------------------------|--------------------------------------|
|   |      | ●プロジェクト説明<br>●グループでの話し合い（0.5時間） | ●プロジェクトを進める<br>●発表や文章でクラスメートと成果を共有する |

評価

評価の方法は、複数の評価法を取り入れ、多角的に判断する方がより公平な評価ができるでしょう。たとえば、学習途中の理解確認と学習促進を目的とする形成的評価や、コース目標の達成度を総合的に判定する総括的評価など、複数の評価法を取り入れると効果的です。また、作文や口頭発表は、予め学習者に評価基準を知らせておいて、評価項目と尺度を示すルーブリックを使って評価をすることもできます。さらに、出席、クラス参加、課題提出など、学習への取り組みや努力も評価に取り入れ、多角的な視点から総合的にコース成績を出すのがよいでしょう。

以下、一例として、評価基準の一例を紹介します。以下の例では、満点を100%とし、各評価項目の割合の目安を示しています。学習者の資質や授業形態（対面かオンラインか、同期か非同期か）なども考慮して、ご自分のコースに合った評価項目と比重を設定してください。

① 出席・クラス参加 5%

「クラス参加」は、授業への取り組み、ディスカッションでの活発な発言、グループ・ワークへの貢献度、学習意欲や努力などを教員が総合的に判断します。

② 課題提出 5%

「読む前に考えてみよう」「読んで理解しよう」「文法表現を学ぼう」「考えをまとめ、書いてみよう」の中で、授業外でできる作業は宿題とし、期日までに提出させます。未完成だったり、間違いの多すぎる提出物は再提出とします。逆に、自分で採点して間違いから学ぼうとしていたり、自分なりに表現を工夫している提出物には加点します。

③ クイズ 15%

「読み物」ごとに、漢字・語彙クイズ、音読クイズ、読解クイズ、文法表現クイズを行います。漢字・語彙クイズでは、「漢字と語彙を覚えよう」シートで各課の20の学習語（単語リストで\*印のついた語）の意味、読み、漢字の書きが問われます（⇒ Web サイト参照）。音読クイズでは、学習者が「読み物」の一部を音読したものを、ルーブリック（⇒ Web サイト参照）

を使って評価します。読解クイズでは、正誤問題や選択問題などで「読み物」の内容が理解できているかどうかを確認します。文法表現クイズは、「文法表現を学ぼう」から出題します。クイズを行う目的は、学習者に継続的に勉強させることにあるため、クイズそのものは短時間でできる簡単なものでいいでしょう。クイズは授業内で行うこともできますし、授業外の決まった時間にオンライン上などで受けさせることも可能です。

#### ④ 作文 20%

「考えをまとめ、書いてみよう」で「読み物」ごとに意見文を書かせ、評価表《⇒ Web サイト参照》を使って評価します。意見文を書くときは、「読み物」から学んだ語や表現だけでなく、巻末の「表現を使おう」にある表現も参照させます。意見文は2回提出させます。第1稿には教員が内容と表現に関するフィードバックを与え、評価表を使って点数化します。第1稿は口頭発表の資料とさせます。発表が終わったら、クラスメートからのフィードバックを参考にして第1稿を修正させ、最終ドラフトをオンライン上などで共有させます。

#### ⑤ 口頭発表 15%

意見文に書いたことをクラスで発表します。書くときと話すときの言葉づかいの違いや、発表ならではの効果的な情報の使い方に注目させます。発表を聞く側の学習者には、ピア・フィードバック表《⇒ Web サイト参照》にコメントや質問を書かせ、発表者に渡します。口頭発表は、学習者数が少ない場合はクラス全体で行うことができますが、学習者数が多い場合は、いくつかのグループに分けて同時進行させることもできます。発表に十分な授業時間が取れない場合は、オンライン上にビデオ（または音声）をアップロードさせ、非同期にフィードバックするという方法もあります。

#### ⑥ プロジェクト 10%

「発展させよう」で紹介されている課題を参考に、学習者主導（グループまたは個人）で行うプロジェクトを1つ企画・進行させ、学期末に成果を共有します。授業内で発表してもいいですし、オンライン上などで共有することもできます。提出日直前にあわてるといことがないように、定期的に途中経過を報告させたり、小さな課題を与えたりして、着実に進めさせる方法を考えるとよいでしょう。

#### ⑦ 中間試験と期末試験 30%

中間試験（授業内）で2課分、期末試験（試験期間中）で3課分を扱います。

## 言葉に敏感になろう



読み物

大野晋「意味の違い目を見る」  
『日本語練習帳』岩波書店1999

- 「思う」と「考える」は意味がどう違うか、ペアで話し合ってみよう。
- 適切な言葉を選びなさい。選ばなかった方がなぜいけないのか、どちらでもいい場合は意味がどう違うかを考えてみよう。
  - 二つの言葉の意味がどう違うかを [a. 考えて b. 思っ] てみよう。
  - 来年、留学しようと [a. 思っている b. 考えている]。
  - 今日のお昼は絶対にカレーを食べようと [a. 思う b. 考える]。
  - 今晚の夕食のメニューを [a. 思っている b. 考えている]。
  - 山田さんは弟 [a. 思い b. 考え] のお兄さんだ。
  - 金メダルをとることができ、うれしく [a. 思います b. 考えます]。
  - この問題をずっと [a. 思っている b. 考えている] が、いい答えが出て来ない。
- 次の言葉はどんな意味か考えてみよう。さらに、「思う」を「考え」に、「考え」を「思う」に置き換えることができるか考えてみよう。
  - 今日は火曜日から！月曜日だと思ひこんでいた。(考えこんで？)
  - 「尊敬する人は誰か」と聞かれて、考えこんでしまった。(思ひこんで？)
  - その人の名前を思ひ出せないでいたが、急に思ひ出した。(考え出した？)
  - 新しいことを考え出す力を育てることが大切だ。(思ひ出す？)
  - いじわるなあいつに思ひ知らせてやる。(考え知らせて？)
  - あいつをなぐってやろうと思ったが、思ひとどまった。(考えとどまった？)
  - 何もいいアイデアが思ひ浮かばない。(考え浮かばない？)
- 2と3の例から「思う」と「考える」の意味の違いをもう一度考えてみよう。

| 思う | 考える |
|----|-----|
|    |     |



## 意味の違い目を見る

大野晋『日本語練習帳』岩波書店 1999

- 日本語がよく読めるように、よく書けるようになりたいとすれば、最初どんなことに気持を向けるといいか。  
文章は一つ一つの単語で成り立っています。文章はほぐしていくと、結局は単語に達します。単語は建築ならば煉瓦に喩えられるでしょう。煉瓦はその一つ一つが同じ形に作られていて、適切に配置されます。煉瓦ならば形が均一ですが、文章を組み立てる煉瓦である単語は一つ一つ異なっていて、文章の中でお互いに微妙に応じあいます。だから、まず単語の形と意味に敏感になりましょう。

### 練習①

「思う」と「考える」という似た意味の言葉があります。「行くべきだと思う」「行くべきだと考える」のように使います。しかし場合によっては、どちらを使ってもいいというわけにはいきません。例えば、

今夜のごはんの献立を —

という場合には、「献立を考える」が普通で、「献立を思う」とはいけません。

これにならって、

a — を思う (または、— に思う)

b — を考える

と区別して使うのが普通な a と b とを、それぞれ三つずつ書いて下さい。

— 問 1

次に、「思う」と「考える」はどう違うのか、書いて下さい。

— 問 2

「考える」とは理性的な働きで、「思う」とは感情的なものだとみる人もあるでしょう。しかし「入学試験を受けようと思った」という場合には、感情的と

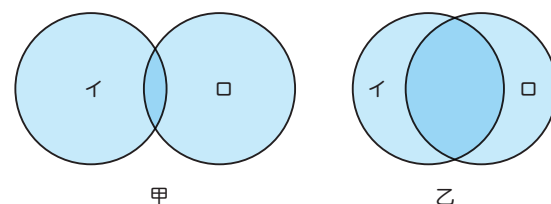
25 はいえないでしょう。

a と b の答えの一例。

a 故郷を思う。はるかなベネチアの都を思う。不満に思う。

b 問題を考える。万が一の場合を考える。段取りを考える。

30 この場合、どうして「思う」あるいは「考える」の片方しか使えないのか。上の甲乙の図を見て下さい。



言葉の意味の重なり

まず、上の図のまん中の重なっている部分、これは二つの言葉の意味の重なるところ、二つの言葉のどちらを使ってもよいところです。「私はこうしようと思った」「こうしようと考えた」などという場合は、だいたいどちらを使ってもいい。しかし、「百万円も使ってしまった」と「百万円も費やしてしまった」とは重なっていても、「使う」と「費やす」では重なりが小さく、図の甲に当たる。「思う」「考える」の場合には、重なりが大きく、図の乙に当たる。図のイ、ロという重ならない部分は小さい。しかしイとロとは交換するわけにいきません。このようにイとロとが、小さい場合と大きい場合とがあります。

これから、いくつかの問題を取り上げますが、乙の図のように単語によっては、重なっている部分が大きくて、イとロが小さいものもある。①その微妙なところを、言葉のニュアンスといっています。言葉の使い方がいいとか、言葉が鋭く読めるとかいうことは、このイとロとを明らかに意識して区別し、使い分けられるかどうかにかかっています。

では、「思う」と「考える」の違う部分は何なのかを見るために、もう一つ問題を出します。

## 練習②

50 次の言葉の意味の違いをそれぞれ書いて下さい。

「思いこむ」と「考えこむ」

—— 問 3

「思い出す」と「考え出す」

—— 問 4

「思いこむ」とは、一つの考えを心にもったときに、それ一つを固く信じて他の考えをもてないこと。「考えこむ」とは問題に関わって、あれこれとしきりに考えをめぐらして止まらないこと。

「思い出す」は、一つの記憶を心の中によみがえらせること。「考え出す」は、あれこれ工夫して新しい考えを生むことです。もっとも「出す」には「始める」という意味もありますから、「思い出す」「考え出す」は「(心配だと) 思い始める」「(どっちがいいか) 考え始める」という意味にもなります。

60 そこで、「思う」と「考える」の違いに戻りましょう。次の言葉の「思い」を「考え」に置き換えることができるかどうか。

思い知らせる

思いとどまる

思い浮かべる

思いおこす

65 この「思い」を「考え」に置き換えることはできません。なぜできないか。

「思い知らせる」とは、自分の心の中にある一つの気持、恨みとか悪い感情を相手に分からせることです。長い間、自分の心の中に抱えている恨みを相手に知らせるのが「思い知らせる」。

70 「思いとどまる」とは、自分の胸の中にあって突っ走ろうとする一つのことを抑えること。

「思い浮かべる」「思いおこす」の「思い」も同じことです。

つまり「思い」とは、胸の中にある一つのことをいいます。これに対して「考える」とは、あれかこれか、ああするか、こうするかと、いくつかの材料を心の中で比べたり、組み立てたりすることです。

75 つまり、「思う」とは、一つのイメージが心の中にできあがっていて、②それ一つが変わらずにあること。胸の中の二つあるいは三つを比較して、これかあれか、こうしてああしてと選択し構成するのが「考える」。

80 ③この違いは昔からあったのです。「考える」という言葉を古くさかのぼると、罪人を刑罰に処するとき、「……に勘ふ」と言いました。「考える」の一番古い例を『日本書紀』に求めると、一つは「刑罰を決めること」です。もとの形「かむがへる」の、「か」とは、事とか所とかいうこと、「むがへる」の古形は「むかへる」で、「向き合わせる」こと。犯罪者の実際にやった悪事が、刑罰の

## 読んで理解しよう

条文のどれに当たるかと事実と条文を突き合わせて決定すること、それが「かむがへる」でした。また、戸籍帳の記載と実際の田畑の配置を突き合わせて調べることも「校ふ」といいました。つまり「事柄を突き合わせてしらべる」のが「考える」の最古の使い方です。現在も、「企画を考える」とか「献立を考える」とか、あれこれ組み合わせるときに「考える」という。④そこには「思う」は使いません。「明日の試験を思う」といったら、明日の試験のこと一つが心配で気にかかることになります。

古い文学の中に出てくる「思ふ」は、「胸の中に思っている」と置き換えるという例が多い。言葉には出せずに、好きな人を恋する。それを「思ふ」という。胸の中には一人の人の姿しか見えない。それをじっと抱いている。だから「思ひ人」とは、それを告白できないで恋している相手をいいます。「思う」を「感情的だ」ととらえた人は、⑤その点を強く感じたのです。「思う」は胸の中の一つのイメージをじっと大事にしていることですから、「試験を受けようと思う」というときには、そのこと一つを心の中で決めていることです。

それに対して、「考える」にはあれかこれかという比較の観念、あるいは組み立て、構成の気持が含まれている。⑥そのことを書けば、合格です。

100 お茶を一杯

(外国語の話と聞いただけで、それはごめんだという方は、ここは飛ばしてさしつかえありません。先へお進み下さい)

デカルトの哲学の基本原則として有名な、「コギト・エルゴ・スム」(cogito ergo sum) というラテン語の言葉があります。現在、英和辞典にも項目として立てられていて、昔ながらに「我思う、ゆえに我あり」と訳してある。co- は「共に」の意、-gito は agitare 「動かす」から来た言葉で、合わせて「事物を頭の中で一つにまとめる」とされています。もし cogito がその意味なら、それを「我思う」と訳すのは不的確で、むしろ「我かう」とあるべきでしょう。最近のデカルト研究書では、「私は考える」と訳しているものが多いようです。

問1 本文の内容に合うように [ ] から適切な言葉を選びなさい。

- ① 筆者は単語は建築の煉瓦れんがのようなものだといっているが、それは単語が煉瓦れんがのように [a. 適切に配置されている b. 形が同じだ c. 形が異なっている] からだ。
- ② 「今夜のごはんのメニューを考える」という表現で、「考える」を「思う」に置き換える [a. ことができる b. ことはできない c. ことがある]。
- ③ 本文の図で、まん中の重なっている部分は、二つの言葉の意味が [a. 異なる b. 交換できない c. 似ている] 部分を示す。
- ④ 本文の図で、イとロの重なっていない部分は、二つの言葉の意味が [a. 異なる b. 交換できる c. 似ている] 部分である。
- ⑤ 言葉が鋭く読めるとは、言葉の意味の [a. 重なりが小さい b. 重なりが大きい c. 重ならない] 部分を区別し、使い分けられるかどうかにかかっている。

問2 次の文が本文の内容に合っていれば○、合っていなければ×を入れなさい。×を入れたら、どこが違うのか、本文のどこを見れば分かるのかも考えよう。

- ① 筆者は「考える」は理性的な働きで、「思う」は感情的な働きを表わすと説明している。( )
- ② 「思いこむ」とは、一つの考えを固く信じて、他の考えをもてないことを指す。( )
- ③ 「考え出す」とは、一つの記憶を心の中によみがえらせることである。( )
- ④ 「思い出す」には「思い始める」という意味もある。( )
- ⑤ 「考える」は昔の「勘ふ」から来ており、『日本書紀』では犯罪者をどの刑罰に処するかを決めることという意味で使われていた。( )
- ⑥ 「勘ふ」のもとの形の「かむがへる」の「か」は「向き合わせる」という意味であった。( )
- ⑦ 「勘ふ」の他に「校ふ」という言葉もあり、それは「田畑の戸籍帳の記載と実際の配置を突き合わせて調べる」という意味であった。( )
- ⑧ 「明日の試験を思う」で「思う」を「考える」に置き換えても、意味はそれほど変わらない。( )

問3 次の質問に簡潔に答えなさい。クラスメートと話し合ってもかまいません。

- ① 「思い知らせる」「思いとどまる」「思い浮かべる」「思いおこす」という言葉の中で「思い」とは何を指すか。
- ② 上の言葉で「思い」を「考える」に置き換えることができるか。それはなぜか。
- ③ 上の例から「思う」と「考える」の違いを大野（筆者）はどう説明しているか。
  - a. 「思う」とは\_\_\_\_\_。
  - b. 「考える」とは\_\_\_\_\_。
- ④ 上の質問の答えからすると、次の二つの文は意味がどう違うか。
  - a. 大野さんのことを思う。
  - b. 大野さんのことを考える。

問4 文章の中で下線の指示代名詞が何を指しているか簡潔に答えなさい。

- ① その微妙なところ：\_\_\_\_\_
- ② それ：\_\_\_\_\_
- ③ この違い：\_\_\_\_\_
- ④ そこ：\_\_\_\_\_
- ⑤ その点：\_\_\_\_\_
- ⑥ そのこと：\_\_\_\_\_

### クラスメートと話し合おう

1. 「『考える』は理性的で、『思う』は感情的な働きだ」という仮説はどこがいけないのか。
2. 「お茶を一杯」の文章の中で、デカルトの「コギト・エルゴ・スム」の訳が「我思う、ゆえに我あり」では、何がいけないのか。
3. 「思う」と「考える」のように、意味がよく似ているが置き換えることのできない言葉の例を見つけ、どう違うか考えてみよう。

## 文法表現を学ぼう

### ステップ①

問1 ( ) に適切な助詞を入れなさい。

- ① よく読めるようになりたいとすれ ( )、どんなこと ( ) 気持ちを向けたらいいか。
- ② 文章は単語 ( ) 成り立っている。文章の中 ( ) 単語がどのように使われている ( ) に敏感になろう。
- ③ 「思う」 ( ) ( )、心の中に一つのイメージしかないことをいう。
- ④ 日本語 ( ) 試験のこと ( ) 気にかかる。
- ⑤ 言葉 ( ) 出せずに、好きな人 ( ) 恋する。

問2 空欄に入る言葉を下から選び、文章を完成させなさい。

日本語がよく読めるかは、言葉の微妙な違いに敏感かどうか①\_\_\_\_\_。  
例えば、「思う」と「考える」の違いを考えてみよう。「思う」とは感情的な働きの②\_\_\_\_\_で、「考える」とは理性的な働きだと思う人がいるかもしれない。③\_\_\_\_\_、「明日は雨が降ると思う」は感情的とは言えないだろう。「思い込む」「思い出す」「思い知らせる」の「思い」から分かるように、「思う」は一つのイメージが心の中にできあがっていて、変わら④\_\_\_\_\_にあることをいう。⑤\_\_\_\_\_、「考える」は、「考えこむ」「考え出す」の「考え」のように、いろいろなことを組み立てたり、あれこれ工夫して新しいことを生み出すときに使う。⑥\_\_\_\_\_、「思う」は心の中で一つのイメージを持っていること、「考える」はいくつかの材料を比較したり、構成したりする意味が含まれているのだ。

こと    ず    かかっている    しかし    つまり    これに対して

## 文法

関係節 (relative clause) では、主語や目的語を表わす「が」が「の」になることがある。意味は変わらない。下の例を見てみよう。

例1 上の図の「まん中の重なっている」部分を見てみよう。

=が

例2 「Cogito ergo sum の訳の間違っている」研究書がたくさんある。

=が

【練習】 次の文の下線部の「の」を「が」に置き換えることができるなら「が」、できなければ×を入れなさい。×を入れたら、なぜできないかも考えてみよう。

① 「思う」と「考える」には、意味の似ている部分と異なる部分がある。

( )

② 日本語のできる人は、ことばの微妙な意味の違いをうまく使い分ける。

( )

( )

( )

③ 「夕食の献立を考える」では、どうして「思う」に置き換えられないのか。

( )

( )

④ 言葉によっては、意味の重なりの小さいものと大きいものがある。

( ) ( )

## 表現

① A とは、B (の) ことだ／ことをいう A means B, A is defined as B

例1 「思い出す」とは、一つの記憶を心の中によみがえらせることをいう。

例2 「考え出す」とは、あれこれ工夫して新しい考えを生むことである。

② A は、B か (どうか) にかかっている A depends on (whether or not) B

例3 日本語がよく読めるかは、ことばの微妙な違いに敏感か (どうか) にかかっている。

③ A は～ (の) に対し (て)、B A whereas B, A in contrast with B

例4 「思う」は感情的な働きをいうのに対し、「考える」は理性的な働きをいう。

例5 「思う」は心の中で一つのイメージができあがっているのに対し、「考える」はいくつかの材料を比較する気持ちが含まれている。



## 考えをまとめ、書いてみよう

1. 「分かる」と「知る」という言葉がある。次の文で [ ] から適切だと思う方を選びなさい。選ばなかった方がなぜいけないのか、どちらでもいい場合は意味がどう違うかを考えてみよう。

① 先生：いいですか。① [a. 分からない b. 知らない] 人に絶対について行っ  
てはいけません。② [a. 分かり b. 知り] ましたか。

子ども：はい！③ [a. 分かり b. 知り] ました。

② 大学生の考えを [a. 分かる b. 知る] ために、アンケート調査を行なった。

③ 田中さんは人の気持ちが [a. 分かる b. 知る] 人だ。

④ そんな簡単なこと、誰でも [a. 分かっている b. 知っている] よ。

⑤ 私は7才のときにサンタクロースが実在しないことを [a. 分かった b. 知った]。

⑥ そうか、[a. 分かった b. 知った] ！お父さんがサンタクロースだったんだ！

⑦ 田中：この漢字の意味、① [a. 分かる b. 知る c. 知っている] ？

スミス：いや、② [a. 分からない b. 知らない c. 知っていない]。

⑧ 山田：ここ、ぼやけてよく見えないんだけど、何て書いてあるか① [a. 分かる  
b. 知る] ？

リー：うん、② [a. 分かる b. 知る] よ。

⑨ 考えれば考えるほど [a. 分からなく b. 知らなく] になってしまう。

⑩ スミス：あら、高田さんじゃないの。サングラスをかけているので、① [a. 分  
からなかった b. 知らなかった c. 知っていなかった]。

高田：ふふふ、私が新しいサングラスを買ったって [a. 分からなかった  
b. 知らなかった c. 知っていなかった] でしょう？

2. 1のデータを見て、「分かる」と「知る」の使い方を整理してみよう。

① 「分かる」でも「知る」でも使える文はどれか。その場合、意味がどう違うか。

② 「分かる」は使えるが、「知る」は使えない文はどれか。

③ 「知る」は使えるが、「分かる」は使えない文はどれか。

④ ②と③を比べて、一般化できることはあるか。

⑤ 「知る」と「知っている」に関して気づいたことはあるか。

⑥ 「知らない」と「知っていない」に関して気づいたことはあるか。

⑦ 「分かる」と「知る」はどう違うか。

3. データをもとに「分かる」と「知る」について考えたことを文章にしてみよう。  
本文で学んだ表現や「表現を使おう」《⇒巻末》に出てくる表現をできるだけ多く使ってみよう。



### 発表しよう

本文で学んだ表現、「表現を使おう」《⇒巻末》に出てくる表現を使って、文章にしたことをクラスで発表してみよう。



### 発展させよう

1. 作文などで先生から何度も直される表現にどのようなものがあるか。どのように直されるか、それはなぜかを考えてみよう。
2. 表現ノートを作り、意味は何となく分かるが、使い方や違いがよく分からない言葉や表現を書きとめておこう。そして、その表現の使われている文に出合ったら書き足して行って、どう違うか比べてみよう。話すときや書くときに使ってみて、先生や日本人の友人に適切な使い方が聞いてみよう。



## 第 2 課

CHAPTER. 2

# 日本語らしい表現とは？



読み物

金田一春彦「他人への考慮」  
『日本語 新版(下)』岩波書店1988

## 著者紹介

### 森 美子 (MORI Yoshiko)

**現職** ジョージタウン大学東アジア言語文化学部准教授、日本語プログラム主任  
**略歴** 南山短期大学英語学科、南山大学外国語学部英米学科卒業。愛知県と東京都で高校の英語教諭を勤めた後、渡米。オハイオ大学言語学部大学院で修士号、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校教育学部教育心理学科大学院にて博士号を取得。専門は、心理学的見地から見た第二言語習得。日米合わせて 30 年以上言語教育に携わっている。*Foreign Language Annals* 編集委員 (2017-present)、全米日本語教師会副会長 (2016-2017)、中部大西洋岸日本語教師会共同会長 (2020-2021)。

**著書** 『親と子をつなぐ継承語教育—日本・外国にルーツを持つ子ども—』(共著、くろしお出版 2019)、『アメリカで育つ日本の子どもたち—バイリンガルの光と影—』(共著、明石書店 2008)、『言語教育の新展開—牧野成一教授古希記念論集—』(共著、ひつじ書房 2005)、『第二言語習得研究への招待』(共著、くろしお出版 2003) など。また、語彙・漢字習得、言語学習と個人差、メタ認知知識、多言語習得、テクノロジーを導入した日本語教育などに関する論文を *Reading Research Quarterly*, *Language Learning*, *Modern Language Journal*, *Applied Psycholinguistics*, *Foreign Language Annals*, *Language Teaching*, *Japanese Language and Literature* など多数発表している。

## 読んで考える日本語 10 のトピック 中上級

ちゅうじょうきゅう

2022 年 7 月 4 日 初版第 1 刷発行

著者 森 美子  
もり よしこ

発行人 岡野秀夫

発行所 株式会社くろしお出版

〒102-0084 東京都千代田区二番町 4-3

TEL: 03-6261-2867 FAX: 03-6261-2879

URL: www.9640.jp e-mail: kurosio@9640.jp

書籍デザイン スズキアキヒロ

印刷所 藤原印刷株式会社

© 2022 MORI Yoshiko, Printed in Japan ISBN 978-4-87424-908-6 C0081

● 乱丁・落丁はおとりかえいたします。本書の無断転載・複製を禁じます。

©Kurosio Publishers